

いのちを学ぶ

南九州大創立50周年

<2>

南九州大は1967(昭和42)年、園芸学部(園芸、造園学科)の単科大学として高鍋町に開学した。当時は珍しい学部で、全国から学生が集まった。

86年までに農業経済、食品工学科を増設。食や緑、人に関する基礎的・応用的研究を進め、高い専門知識を持つ人材を育成してきた。造園分野の多様化が進むことなどから、2002年度に園芸学部(園芸、食品工学科)と環境造園学部(造園、地域環境学科)の2学部に変更した。

高鍋に開学

注目を集めるきっかけとなったのが、本県や神戸市を舞台に04年9月から放送されたNHK朝の連続テレビ小説「わかば」。ヒロインが大学でガーデニングを学ぶ設定で、高鍋キャンパスがロケ地となった。

09年4月、都城市への移転が始まった。2学部を統合する形で環境園芸学部(環境園芸学科)へと改編した。園芸学、造園学、自然環境の3分野を柱に据えている。学生の約8割は県外出身者で、卒業後は地元に戻るなど就職先は全国に

専門性高い人材輩出



高い専門性を持つ人材を育成してきた高鍋キャンパス
=2009年11月

人」として社会ですぐに実践できるような教育カリキュラムを組んでいる」と力を込める。

広がる。農業高の教諭やJA関係、造園会社などを中心に9500人を超える人材を輩出してきている。それをうまく伸ばして、『専門職業

キャンパス内に、実習の場となる農場などを備えるフィールドセンターがあるのは高鍋キャンパスと同様。高鍋の地で育まれた伝統を受け継がれているサークルなどの部室が入る建物や大学祭の名称には「ひばり」が使われ、高鍋キャンパスの所在地だった「ひばりヶ丘」の名残がうかがえる。高鍋から都城への移転は10年、完全に終えた。跡地は17年にはキャンソン(東京)が進出することになり、今年9月、高鍋町と立地調印した。デジタルカメラの大規模工場が建設される。

(渕上耕明)